

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174800597
法人名	社会福祉法人みな福祉会
事業所名	グループホーム大浜
所在地	〒369-1412 埼玉県秩父郡皆野町大字皆野302-2 (電話) 0494-63-1550

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年10月22日

## 【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 10人, 非常勤 11人, 常勤換算	17.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000円 )	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,200円				

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	57 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	金子医院、秩父中央病院、関口歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、ベランダや居間、居室などから秩父の山々が見え、四季折々に色づく樹木やたくさんの実をつけた柿の木などに囲まれた環境の中にある。利用者の外出願望に管理者や職員は連携しながら後ろから見守り同行するなどし本人の思いに寄り添う支援をしている。職員は勉強会や研修などへの意欲も高く、利用者の介護計画などにも積極的に参加できる環境にあり、仕事の励みにもなっている。また、看護師の資格のある職員の配置により、体調管理や病院との連携などをはじめ、利用者や家族が安心できる体制作りを目指している。地域の特性の中で利用者のプライバシーに配慮しながら、地域でのより良い暮らしの実現に向けて日々取り組んでいるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の課題については、自己評価、運営推進会議の開催など着実に取り組みを行い改善されている。職員研修においてはより一層内部研修を充実させ、外部研修についても地域的に参加が難しい状況にあるが、出来るところから参加し改善に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニットごとに、管理者と職員が共に取り組み、それぞれの特徴が反映された内容の自己評価となっている。職員は自己評価に取り組むことでサービスの向上につながることを理解している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、メンバーである地域包括支援センター、民生委員、町会長、民生委員、家族などの参加を得て、活発な意見が出されている。議題に前回評価や防災など具体的なテーマを取り上げて話し合いを持つとともに前回の経過報告も行っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居時には苦情相談の窓口及び苦情箱の設置について説明し、意見や苦情など出していただけるような雰囲気作りを努めている。また、意見等については、運営者、管理者、職員などで話し合い、運営に反映するように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時には、近隣の方とお互いに挨拶を交わしている。また、利用者の友達が気楽に遊びに来てくれたり、畑で採れた野菜をいただくこともある。幼稚園や学校の行事に招待を受けたり、ボランティアの方が訪ねてくることもあり、地域との連携に努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着の意義を理解し今までの理念に新たに文言を加えるなど、利用者と地域の関係性や職員の利用者に対する支援の方向性などを盛り込んだ事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や居間などにさりげなく理念が掲げてあり、サービス提供場面においても管理者や職員の振り返りとなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方と散歩時にお互い挨拶を交わしたり、利用者の友達が気楽に遊びに来てくれることもある。また、ボランティアの方がホームに訪ねてきたり、幼稚園や学校の行事に招待を受けて参加したりしながら、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットごとに、管理者と職員が一緒に取り組みながら、それぞれの自己評価がなされている。職員は評価の意義を理解し、サービスの質の向上につながるよう評価を活かして改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目の運営推進会議では前回の外部評価を議題にし、地域包括支援センター、民生委員、町会長、家族などの参加を得て活発な意見が出された。その後の会議でも防災の議題で話し合うなど、具体的なテーマで話し合いを持っている。なお、会議では前回の経過報告も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のテーマや人選などに力を貸してもらい、ホームの運営や問題などについても気軽に相談できる関係がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面談の折には、出来るだけ話し合いの機会を持つようにしている。また、体調の変化時には様子を伝え、その後の報告もしている。		年賀状や行事の案内はある。しかし、職員の異動のお知らせや、本人の暮らしぶりを伝える機会が少ないので、家族により安心していただけるよう、月1回請求書の送付時などに一緒にお便りを送るなど定期的な報告を期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時には苦情相談の窓口を説明するとともに苦情箱の設置についても伝えている。また、意見や苦情などを出していただけるような雰囲気作りを心がけ、表出された意見等については、運営者、管理者、職員などで話し合い、運営に反映するように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内での異動は最小限に努め、やむを得ない場合については、管理者や主任、馴染みの職員などが十分に配慮をし、利用者の支援に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や勉強会は充実しており、職員は積極的に学んでいる。また、地域性から外部研修への参加は困難を伴うこともあるが、出来るものについては積極的に参加する意欲を持っている。受けた研修については職員間で報告し合い、情報を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に入会し、会議などには参加をしている。地域の同業者との交流は少ない。		地域の特性や連絡協議会が設立してまだ日が浅いことから、同業者との交流が少ないことはやむを得ないことでもあるが、お互いの相互訪問や勉強会は職員の意識の向上にも大きな力となるので、交流が増えることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族の見学から始め、日中にホームで過ごしていただいたり、職員が自宅に出向いて話をすることで、できるだけ本人の安心につながるような取り組みに努めている。また、状況によっては体験入所をすることも可能である。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>郷土料理のうどん作りを教えてもらい昼食の献立にしたり、昔話を聞きながら地域のことを再確認したりするなど、職員は利用者から学び、それを喜びと捉え、支えあう関係作りを築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人、家族と十分な話し合いを行い、本人の意向や希望の把握に努めている。また、状態に応じて日々のかかわりの中で本人の思いを汲み取れるように、言葉やしぐさなどに注意を払いながら支援をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思いを汲み取るようにするとともに、面会時などに家族からも意見を求め、さらに職員全員で意見交換をしながら、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し以前に本人の状態に変化があった場合は、本人、家族などに相談をしながら職員会議などで取り上げ、現状に即した介護計画となるよう見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の支援やお墓参りの同行、自宅の訪問など利用者の要望に応じた支援を心がけている。また、1階の同法人経営のデイサービスセンターの入浴施設の利用や看護師との連携もある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族と十分に話し合いをした上で、本人、家族の希望に沿うようにしており、入居以前からのかかりつけ医の受診支援も行っている。通院も家族の同行が無理な場合は職員が同行し、医療機関とも情報の共有ができています。また、状況に応じてホームのかかりつけ医による往診の支援もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には家族と十分な話し合いを行い、理解してもらっている。また、入居後も本人の状態に応じて、家族や主治医と連絡を取り合いながら、意見の食い違いがないように話し合いを重ね、事業所が対応できる最大のケアについて説明をしているが、一部体制が整っていない。		利用者の重度化は避けて通れないものであるため、運営推進会議で議題に挙げるなどしながら、今一度終末期の対応に向けて話し合いを持ち、体制を整備していくことが期待される。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は利用者への言葉かけや、入浴、トイレ誘導時などプライバシーに配慮した対応を心がけている。記録や個人情報の取り扱いについても徹底している。また、ボランティアの受け入れや外部における行事への参加時などにも個人情報に対する配慮が見られる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしながら、出来るだけ希望に沿うように支援をしている。なお、外出の際は、1階のデイサービスセンターの職員の見守り体制や、管理者、職員の連携により、遠くまで出かける利用者の思いと安全をホーム全体でバックアップしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとに利用者と共に買出しに出かけ、それぞれの献立が提供されている。準備から後片付けまで利用者の力を活かしながら職員と一緒に行き、同じものを同じテーブルで食している。食事形態も工夫されており、時々外食にも出かけた。行事での外出ではお弁当なども楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は大体決まっているが、その日の希望で入浴ができるように入浴回数を増やしたり、時間の調整をしたりしながら要望に沿うように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園を楽しんだり、食事の下ごしらえ、針仕事、掃除やごみ捨て等の家事など、楽しみごとや役割を持つように支援し、張り合いのある生活につなげている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事の買い出しに出かけたり散歩を楽しんだりしながら、ほぼ毎日外の空気に触れることができるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は1階にあり、施錠は夜のみである。2ユニット間も自由に行き来することができ、エレベーターの使用も自由である。1階のデイサービスセンターの職員や事務職員の協力を得ながら、見守り体制を整えることに努力し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練、夜間を想定した避難訓練を行っている。また、消防署の指導のもと救命救急の講習会を開催したり、地域防災協定を結び近隣との協力体制を作るなど、災害対策に取り組んでいる。		AEDの設置も決まっており、災害時の近隣の避難場所としての役割も期待されるなど地域とのつながりも着実に進んでいることを考えて、最低限の水や食料の備蓄なども期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員間で栄養のバランスを考えながら献立をたてている。食事水分量はチェック表に記入をし、一人ひとりの状態を職員全員で共有している。食事形態も利用者の状態に配慮したものとなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体の天井が高く、解放感と明るさが感じられる。浴室の脱衣所が広くベランダもあり、気持ちのよい空間である。ユニットごとに居間の飾り付けも工夫され、利用者の作品がさりげなく展示されている。台所も居間全体が見渡せて、食事づくりなどの音やにおいが利用者の五感を刺激するような空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた利用者の馴染みの家具や身の回りのものを持ち込むことで、その人らしい居室作りとなっている。		